

団体名	NPO法人ゆめみ〜る	活動タイトル	子ども食堂を基点とした地域共生基盤創り	
<b>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</b>			<b>■ 活動風景</b>	
<p>● <b>地域の望ましい社会状況(ビジョン)</b></p>	<p>登別市幌別地区は昭和の時代から培われてきた地域活動が活発に行われ機能を果たしてきました。この地域活動による支え合いを継承し、変化する時代の要請に応えられる地域活動のあり方を創出することが登別市幌別地区に必要な事と考えます。</p> <p>当団体は、大きな社会問題として注目されているこどもの貧困問題を地域活動の課題と位置づけ、この支援が行える多世代参加型の地域作りと次世代を担う子どもの健全育成が叶う社会作りをめざします。</p>		<p>かえる食堂での昼食風景、コロナ禍が小康期間の開催風景</p> 	
<p>● <b>団体の社会的役割(ミッション)</b></p>	<p>当団体が築きあげた様々な資産を投入して以下の活動に取り組みます。</p> <p>1) 地域食堂の設備・備品、運営ノウハウ、人的ネットワーク、資金を投入して子どもの健全育成を支援する「子ども食堂」を立ち上げます。</p> <p>2) 当団体の活動に協賛、支援を行ってくれる個人、地域事業者、行政機関、教育機関などに働きかけ、子どもの健全育成を支える社会基盤に「子ども食堂」の明確な位置づけを確保します。</p> <p>3) 将来、登別市における幌別地区以外の地区で子ども食堂の立ち上げを検討している有志にとつてのロールモデルとなり、マニュアル提供をはじめとする支援を行います。</p>			
<p>● <b>団体の活動基盤</b></p>	<p>活動資金：学習支援事業などの公的子ども支援事業の受託が叶う体制作りを行います。</p> <p>人材の確保と育成：現役世代のボランティア参加とマネージメント全般を担う常勤スタッフを確保し、安定した組織運営体制を育成します。</p> <p>物的資源：立ち上げ期は当団体の物的資源を全面的に利用し、2020年度以降は自主財源（助成金、事業収益、寄付金）で必要な物的資源を確保します。</p> <p>ナレッジ：地域有識者、協力機関の協力を得て組織運営マニュアル、人材育成マニュアルを作成し、事業運営とスタッフのスキルアップ環境を確立します。</p>			
<b>■ 活動報告</b>		<b>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</b>		
<p>● 学習会で使用するカリキュラムを策定</p> <p>● 学習会で使用する教材（ラインドレスマップ）を作成</p> <p>● かえる食堂の開店時にプログラミング学習会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒への参加声掛けは、かえる食堂利用者に直接声掛けと登別東小学校でのチラシ配布</li> <li>・かえる食堂で昼食を提供した後、13時から1時間から1時間半程度の時間でプログラミング学習会を実施</li> </ul>		<p>● コロナ禍で教室開催が当初予定を下回りましたが、継続して教室に参加してくれた子どもが4名</p> <p>● カリキュラムは初心者（小学生低学年）向けで第一段階としては満足できる内容</p> <p>● 教材として作成したラインドレスマップも子ども達の興味を強く集めたが、使用した小型ロボットの特性に最適化すべき課題が見つかりました。</p> <p>プログラミング学習風景、小型ロボットでサンドイッチの素材を集める課題に取り組む子どもたち</p> 		
<b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b>		<b>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</b>		<b>■ 活動成果のアピールポイント</b>
<p>● 子ども食堂での食後の過ごし方では、タブレットでオンライン学習や動画閲覧、ゲームですごく子どもが多いが、プログラミング学習で未知のことへの興味や挑戦の機会を経て、子ども自身で考え、問題解決に取り組む時間を提供することが可能であると確認できた。</p> <p>● 学習過程で途中放棄しそうな子どもに対して寄り添いながら支え、応援することで子ども自身が最後まで問題解決に取り組めることが確認できた。</p> <p>その子ども（小学校2年生）が最後に「ありがとうございます」と頭を下げたのは感動できた。</p>		<p>● 子どもが子ども食堂などの居場所できつる時間を持つための取り組みで子ども自身が自ら参加意欲を維持できるようにプログラミング学習のカリキュラムを成熟させることが課題である。</p> <p>● カリキュラムに沿って子どもにプログラミングを教える講師の話し術、説明力、子どもの観察力を向上させる講師育成プログラムの開発も必要を強く感じた。</p> <p>● 子ども食堂などの居場所でのプログラミング学習をはじめとした様々な子どもへの関わりは全てが、子どもに寄り添うことが基本であると気付き、これの継承方法を開発することが大きな課題と考え、助成期間終了後も進めていきたい。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>小型ロボットを使ったプログラミング学習が子ども達の強い興味を集めることが確認され、初期の運用体制構築を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化</p> <p>プログラミング学習を開催しないかえる食堂の営業日には、子ども達からプログラミング学習を早く再開して欲しい旨の声が多数聞かれました。</p>